

尾鍋組

エコシオ工法の採用拡大

天然砕石で地盤補強 商業施設へ積極提案

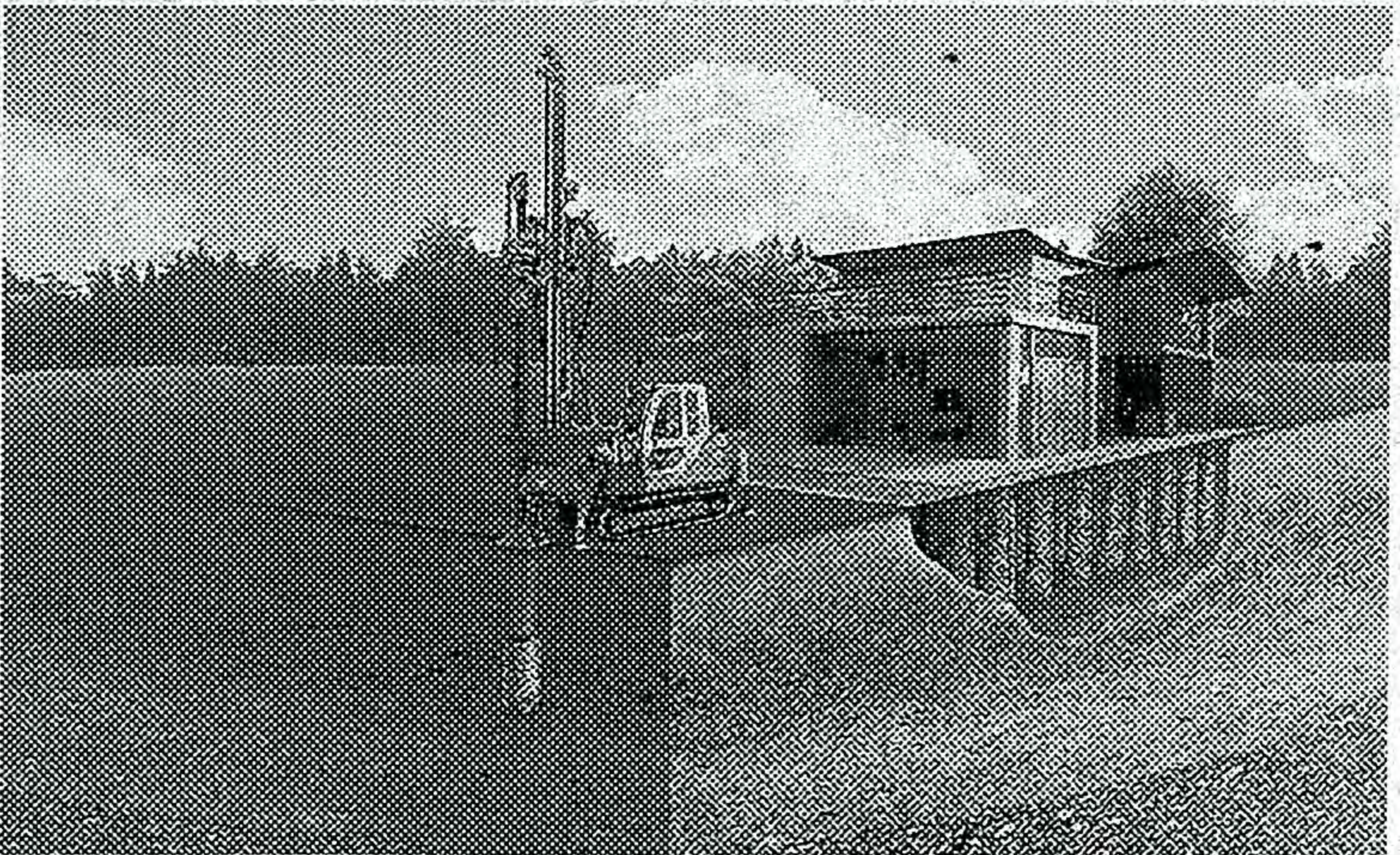
土木工事業の尾鍋組(本社松阪市飯高町宮前、尾鍋哲也社長、電話0598・46・0234)は、地中を垂直に掘った穴に天然の砕石を埋めて地盤を固める「エコシオ工法」を主力の住宅分野以外への採用を進める。秋ごろから首都圏を中心とする都心部に建設を計画する商業施設などへ代理店経由で積極的に提案していく。

(松阪・倉科信吾)

同工法は、EGケーシング(鉄の筒)を地面に対し掘った土を地上に出さず、中の土を水平方向に圧縮させることで、周辺地盤を固めながら地面に穴を開ける。掘った穴にはセメントなど人工物を埋めずに天然の砕石を埋めるため、地盤の強度を長期的に維持でき



エコシオ工法で地盤を掘る



地中断面図

るので、液状化対策にもつながる。こうした特徴から、事業を開始した2009年4月から15年6月30日現在で、同工法の施工件数は累計2322件に到達。最近では急激に市場が拡大し、15年3月期は前期比増の10

43件に増えている。施工件数の9割以上が住宅向けだが、事業を拡大するため非住宅分野への売り込みを進めることにした。ビルの密集エリアで同工法を採用することで、ゲリラ豪雨の際に建物の地盤にある砕石に浸透させて、下水

処理の機能不全や川の氾濫を緩和できる利点があるという。尾鍋社長は「エコシオ工法が地盤補強以外にも、メリットがあることを知ってもらい、住宅以外の分野でも施工件数を伸ばしたい」と話している。